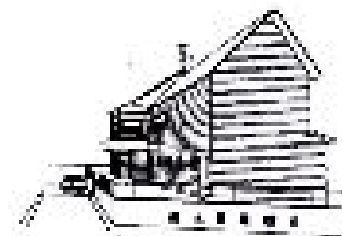


**<今朝の聖書から>** 申命記4章を新共同訳聖書に付けられている区切りで見えていきますと、“モーゼの勧め”、15節以降に“偶像礼拝に対する警告”、41節からの“逃れの町(の規定)”；前回に見た、44節からの“律法(十誡)のまえがき”と続き、5章の十誡に進んでいます。今朝はその勧告に当たるところからのなります。モーゼは“主以外には何ものをも恐れたり、それに従ったりしてはいけない”と勧告します。“なにも恐れるものがない”ということほど不安の原因になり、最後には“周りのもの全てを恐れる”ということになってしまうことは、前回も見たとおりです。“イスラエルよ、いま、わたしがあなたがたに教える定めと、おきてとを聞いて、これを行いなさい”と語られますが、その中身には結果が伴うものであり、その結果というのが“あなたがたは生きることができ、あなたがたの先祖の神、主が賜わる地にはいって、それを自分のものとすることができよう”という約束なのだ、というのです。2節に“わたしがあなたがたに命じる言葉に付け加えてはならない。また減らしてはならない。わたしが命じるあなたがたの神、主の命令を守ることのできるためである”とあります。後に新約聖書で描き出されているパリサイ派の人たちにとって、律法は“ねばならぬ集”であったり“べからず集”のような祭儀規定に変わってしまっています。初めから主なる神は、このことをご存じだったようです。心に書き記しておかなければならない律法に、行いを付け加えてしまったのかもしれない。付け加えるというのは、実に簡単に犯してしまう過ちかもしれません。かつて、金銀や芸術的な価値を駆使して、教皇の権威の為に、教皇を飾り立て、自分の為にミサを捧げてしまいました。また不都合な規定は、聖書からさえ削除しました。主は、これらが罪の結果ではあっても、福音=救いとは何の関係もないこと、と語っておられ、付け加えられた印にすぎない、と仰っているのです。“主の命令を守ることができるため”追加も削除も禁止されているのです。偶像=アイドルを恐れたり偶像を慕わしく思うことは、イエス様にあっては“試みにあわせないで”と祈りなさいと語られることです。“主につき従ったあなたがたは皆、きょう、生きながらえている”と、神様は今も優しく語りかえてくださっているのです。しかし、“かつての過ちを忘れやすいものだ”とも語られるのです。私の作って偶像が敬意を払われるのではなく、まことに知恵あり、知識ある民(6節)と、私達自身が尊敬されるのです。

# 週報

2009年 10月 11日



伝えよう 救い主を  
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式	第一日曜日)
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)